

2025年11月20日作成

第1.0版

当院で診療を受けられた患者さん・ご家族様へ 臨床研究へのご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究では、普段の診療で得られた情報を使用させていただくものです。この研究のために、新たに診察や検査などを行うことはありません。以下の情報を研究に用いられたいとお考えの患者さんまたはご家族の方は、遠慮なくお申し出ください。お申し出いただいた患者さんの情報は使用いたしません。また、研究への参加にご協力いただけない場合でも、患者さんに不利益が生じることは一切ありません。

新生児集中治療室（NICU）における中心静脈カテーテル長期留置の工夫

対象となる患者さん

2015年1月～2025年12月の間に当院NICUで新生児治療を受けられた患者さん

研究責任者

奈良県立医科大学附属病院 消化器・総合外科 洲尾 昌伍

研究の目的と意義

新生児集中治療室（NICU）で集中治療を要する患児の管理において中心静脈カテーテル（CVC）は薬剤や高カロリー輸液の投与、血液透析（CHD）など生命維持に不可欠な医療デバイスです。通常、新生児領域では末梢挿入型中心静脈カテーテル（PICC）が第1選択となりますが、PICC挿入困難例や生後早期から透析を要する患児ではCVCや血液透析用カテーテルの長期留置が必要となります。新生児は体格が小さく、頻回のケアや体位変換が必要です。また、皮膚が脆弱であり固定が困難であるため、カテーテル長期留置が難しくなります。本研究はNICU入院児におけるCVC留置症例の後方視的検討により、抜去を要した合併症の発生要因を明らかにし、長期留置を可能とする工夫を提案することです。本研究により今後のCVC挿入や固定を含めた管理の標準化に寄与する可能性があります。

研究の方法

『使用する情報』に示す情報を対象の患者さんのカルテから収集し、NICUにおけるCVC

挿入方法や留置中の管理方法を検討します。

使用する情報

患者さんの診療情報として在胎週数、出生時の身長及び体重、カテーテル挿入時日齢、挿入時体重および身長、カテーテルの留置目的、デバイスの種類、挿入血管、カテーテル挿入長、挿入方法（穿刺法、カットダウン法）、挿入時合併症（動脈穿刺、気胸など）、カテーテル留置期間、留置中の合併症（カテーテル感染、閉塞、抜浅など）、抜去理由、治療目的達成の有無

情報の管理責任者

奈良県立医科大学 学長

研究期間

研究機関長の実施許可日～2026年12月31日

個人情報の取り扱い

対象となる患者さんの個人情報は厳重に管理し、利用する情報等からはお名前や住所等、個人を特定できる情報は削除し、研究番号に置き換えて使用します。また、研究成果を学会や学術誌等で公表する際も個人を特定する情報は公表しません。

お問合せ先

奈良県立医科大学附属病院 消化器・総合外科 洲尾 昌伍

住所：奈良県橿原市四条町 840 番地

電話：0744-22-3051

e-mail：surg-1@naramed-u.ac.jp